

第４回舟着地域協議会 会議録		公 開 ・ 非公開	
日時	令和８年７月１０日（金） 午後７時００分～午後８時３８分	場所	鳥原児童館１階 会議室
出席者	（委員） 荒川浩幸、河口利幸、加藤春夫、長谷川高弘、古田忍、中根康智、 山下健次、山本平、原達也、樋口義治、鈴木仁、柿田文恵、飛安章智、 櫻井利昭、池田嘉子、清水幸代		
	（事務局）服部所長、菅野参事、宮本副参事、後藤主任		
欠席者	１人（森勝哉）	傍聴者	２人
議題・議事・発言等	１ 開会 ２ 報告 （１）こども園再編・整備計画の見直し（こども未来課） ３ 議事 （１）令和９年度地域自治区予算事業計画策定の協議 （２）高齢者支援アンケート内容 ４ その他 （１）次回の舟着地域協議会 ５ 閉会		

１ 開会

（会長）

半数以上の委員が出席しているため、新城市地域自治区条例第８条第３項の規定を満たしており、会議が成立していることを報告した。

今回の会議録署名人は中根康智委員と山下健次 委員となることを報告した。

２ 報告

（１）こども園再編・整備計画の見直し

舟着こども園（６月１６日開催）及び大野こども園（７月３日開催）の保護者に対し、園児数の減少傾向や今後の園のあり方に関する情報共有を行った。保護者へ説明した内容や現状の推計データを、舟着地域協議会にも同じタイミングで情報共有する必要があったため、報告することに至った。

こども未来課から資料１に沿って説明をした。主な説明ポイントは下記のとおり。

- 新城市こども園再編・整備計画（令和６年７月策定）を策定した当初に比べ、想定を超えるスピードで市全体の児童数が減少。
- 舟着こども園の園児数も減少傾向にあり、令和８年度には未満児も含め１０人となっている。新城市こども園整備指針（令和４年３月策定）では「定員２０名未満」かつ「３歳以上児が１０名未満」の場合、集団保育確保の観点から再編（統合・閉園）を検討する基準となっている。現時点で舟着こども園は、指針の人数を下回っている。

- 通わせたい意向のある園児が 1 人でもいる限りは開園を継続し、保護者の意向を最大限尊重する。
- 地方自治法の中に明記されている地域協議会への正式な意見聴取は、今後の進捗に応じて改めて別のタイミングで実施する。

質疑応答では、委員から「保護者に存続の意思があれば継続できるのか」といった質問が提起されました。これに対し市は、「通いたい園児が 1 人でもいる限り開園を継続する」として、保護者の意向を最大限尊重する方針を明言しつつも、幼児期における集団保育が社会性や協調性の育成に与える利点について説明をしました。

今後の協議の進め方については、まず保護者の意見を整理した上で地域協議会へお諮りする手順が説明され、委員から出された「保護者会と協議会委員が同席して意見を聞く」という提案について、保護者側も同意見であれば、市は問題ないとの認識を示しました。

また、過疎化防止や通いやすさの観点から小規模保育施設を残す選択肢についての質問もありましたが、市としては一定の集団規模による保育効果を重視しており、現段階で小規模施設を新設・分散配置することは考えていない旨の回答がありました。

質疑応答の詳細は、以下のとおり。

委員	ある保護者は心配している様子で、「地域協議会でこの件について話は出ているのか」と気にしており、不安を抱いている様子でした。自身としては、「保護者に存続の気持ちがある限り、いきなり廃止や統合になることはないと思う」と答えましたが、その認識で間違いはないですか。また、保護者のこうした感情をどう受け止めていますか。
市	令和 12 年に閉園という計画は決定しているわけではなく、その可能性が出てくるものとして計画に記載しています。また、市の方針として、通わせたい意向のある園児が 1 人でもいる限りは開園を継続し、保護者の意見を最大限尊重する姿勢に変わりがないことは説明しています。
委員	舟着こども園の園児数が少なくなってきたら、次は舟着小学校にも影響が出てきますが、小学校の再編について、市の意向で進めていきますか。また、舟着こども園で保護者に対して説明してもらった際、一部の保護者は「閉園ありきだ」と感じたそうで、園児が一人になっても存続してほしいという声も挙がっていたそうですが、そのような対応をしてもらえるのか。同じく、舟着小学校についても保護者の意向があれば存続できるのか。
市	6 月に保護者会で説明したのは、「来年どうなるのか」という急な不安の声が市に届いたため、「急に閉園するような心配はない」と直接伝えるためだった。市の方針として、「最後のお子さんが 1 人になっても園は開けていく」。保護者の意見を最大限尊重する姿勢に変わりはない。ただし、3 歳～5 歳の時期は人格形成や社会性・協調性を養う上で非常に重要な時期である。集団保育の望ましさと、1 人～数名での保育が本当に子どもにとって最善かという課題意識はあるが、それでも「舟着に通わせたい」という意向があればそれを尊重する。小学校については、教育委員会での検討となります。市の意向だけで決定していくことはなく、こども園と同じく地域の意向をお聞かせいただくこととなるかと思います。

委員	親目線からすると、集団保育が大切だと思う。しかし、地域からすると地域コミュニティの拠点として園が存続して欲しい。
----	--

委員	地方自治法の中で地域の重要事項を変更する場合には、地域協議会で意見聴取するとのことですが、今後協議を進めるタイミングとして、事前に意見を聞く機会を設けてもらえるのか
市	設けます。ただし、市としては、保護者会の意見を最大限尊重したいと考えています。そのため、まずは保護者会から意見を伺った上で、舟着地域協議会の皆様へお諮りしたいと考えていますが、いかがでしょうか。
委員	地域協議会メンバーには、正副区長や区長経験者もいることから、保護者会と一緒に協議する機会を設けることはできますか。
市	今までは、保護者の負担軽減のため保護者会の集まりがある時に合わせて、市がお伺いする形で説明や相談をしていました。保護者会と地域協議会から同意が得られれば一緒に協議することは可能です。

委員 A	市全体の数値を見ると厳しい状況で、市の立場も分かる。ただ、少人数保育にはお互いの気遣いや面倒見の良さが育まれるという独自の良さもあり、個人的には少人数保育は肯定的に捉えている。
委員 B	こども園は、幼稚園と保育園が一緒になったようなものか。
市	そうです。
委員 B	こども園での集団の確保となると教育の観点だと思いますが、保育の観点からしたら自宅から近い方が良いのではないかと。現在の舟着こども園ほどの大きさでなくとも、施設規模を小さくして設置していく考えはありますか。
市	現在、分散的に小規模園を設けることは考えていません。
委員 B	今の子どもたちのことを前提に話していますが、移住してくる子どもや将来の子どもことはどのように考えますか。つまり、閉園後に、こども園を復活させることは可能ですか。
市	閉園したこども園を復活させることは難しいです。特に給食室など、衛生面に関わる部分について、注意が必要となります
委員 B	廃園後の復活は難しいと思います。そうすると、地域としては子どもの数が0人でも残していただきたいという考えになると思います。
市	この場合、管理課題になります。使われない施設の老朽化のスピードは速いです。特に給食室の復旧は非常に難しいです。
委員 B	今の施設レベルを維持しなくても、小市の認可型で少人数規模の保育施設を設けるべきではないのか。不動産売買情報では、小学校から徒歩何分、こども園から徒歩何分という情報が載っているが、この地域はこれを書けなくな

	ってしまう。
委員 C	その少人数規模の保育施設を設けることを保護者が必要としているのか。そこまで、バリエーションを大きくするのがいいのかどうかと思う。
市	市としては、集団での保育の大切さを重視していきたいと考えています。

7月15日(水)に改めて舟着こども園保護者会へ相談させていただくことを伝え、報告事項は終了した。

3 議事

(1) 令和9年度地域自治区予算事業計画策定の協議

事務局から資料2を提示し、今までの協議の整理をした。

また、第3回地域協議会において、滑り台設置のために基金を利用してはという意見があり、それに対して事務局から次の点により基金化は非常にハードルが高く、単年度予算で整備するかどうかの検討でのお願いをした。

①会計年度独立の原則

自治体の予算には地方自治法上で、会計年度独立の原則というルールがある。単に購入資金が不足するため、予算をキープするということは原則不可。

②本来の基金の目的

地域自治区予算の要綱で基金設置の規定はあるが、「事業の具体的な目的を明確にすること」とされている。基金は、市の財政運営や災害時への備えや、地域福祉の推進を図るためなど、将来的に事業を行う際、その時に一度で多額の予算を投入し、その年度に多額の出費を抑えるためなど、市全域の大きな目的達成のための費用負担の平準化に備える準備資金としている。

③新城市基金条例の整備

仮に基金で整備を進めるとすると、基金条例の改正が必要で、上記①②の理由もあり、市役所内部や議会の承認が得られない可能性が非常に高い。

事務局からの説明後、グループワークを行い、最後に各グループの意見発表が行われた。グループワークでは以下の意見があった。

< 意見 >

予算の都合や近隣に公園が少ない現状も踏まえ、滑り台整備を進める方向性で意見が一致。

遊具が今現在の最優先事項かというところに疑問が残るという意見や、将来的な学校の利活用を考えてから遊具の検討を進めた方が良いという意見も出た。また、今現在の子どものためや、令和6年度に滑り台とブランコで修繕するということで話がまとまっていたが都合によりブランコだけになったため、滑り台は復元したいという意見が出た。

各グループの意見発表後、採決を取り、「滑り台設置を視野に入れて、事業計画を進めることに全員一致で賛成」となった。

(2) 高齢者支援アンケート内容

事務局から資料3を提示し、高齢者支援アンケートの内容やスケジュールを発表した。内容を協議し、区長経由で各行政区へ調査することとなった。

4 その他

(1) 次回の舟着地域協議会

会長から第5回舟着地域協議会は、8月21日（金）午後7時00分から鳥原児童館で開催することを報告した。

5 閉会

会長から第4回舟着地域協議会の中で全体を通して意見や質問がないか確認した。

(配布資料)

次第、こども園再編・整備計画の見直し資料1、今までの議論のまとめ資料2、舟着地区 高齢者福祉サービス調査資料3